

(移動性減退に伴う) モンゴル牧畜の変遷と生業構造の相対的位置づけ

帯広畜産大学
平田 昌弘

1. はじめに

近年のモンゴルにおける社会構造の変化、自然環境の不順などにより、牧畜民世帯の季節的移動距離が大幅に減退している。放牧移動性が減じた結果、市町村周辺により長期に宿営することになり、局所的に草場が退行するなどの環境問題の生起や牧畜民世帯の生業構造が変化しはじめた。本課題においては調査地を半乾燥地のモンゴル国ドンドゴビ県に定め、家畜管理と生業構造の変遷、放牧移動性の減退に伴って生じた諸問題、これからのモンゴル牧畜の方向性について調査研究してみたい。

キーワード

牧畜、生業、民営化、土地私有化、移動性減退

2. 目的

- ・過去30年間のモンゴル国中央部の牧畜システムの変遷過程を分析する
- ・現在のモンゴル国中央部の牧畜生業構造を人文地理学的・生態人類学的に把握する
- ・近年の社会構造・自然環境・牧畜形態の変化により生じた諸問題を同定し、その要因を分析する
- ・近未来のモンゴル国中央部の牧畜システムの方向性とその形態をシナリオ分析する
- ・モンゴル国中央部の牧畜システムを相対的に位置づける（藤田リクエスト）

3. 研究対象地域と研究対象世帯

3-1. 対象地域

- ・調査研究地：ドンドゴビ県サインツァガン郡・デレン郡（主調査地）
プロジェクト対象地域のウランバートル周辺とゴビ地域（副調査地）
- ・文献研究地：モンゴル国以外の粗放的家畜飼養システム地域：中国内モンゴル自治区
日本を含む先進諸国の集約的家畜飼養システム地域

3-2. 対象世帯

事例研究

- ・地方都市・村周辺部に半定着した牧畜民世帯（1～2世帯）
- ・地方都市・村と関係を保ちながら移動を続ける牧畜民世帯（1～2世帯）

広域調査

- ・ドンドゴビ県サインツァガン郡・デレン郡の多様な牧畜民世帯（30世帯）

4. 調査方法

4-1. 過去30年間のモンゴル国中央部の牧畜システムの変遷過程を分析する

- ・気象庁のデータベースから気温、降水量と降水パターンの変遷を把握
- ・サインツァガン郡・デレン郡のソム役場で家畜帳簿を調べ、世帯数、家畜の種類と頭数の変遷を把握
- ・調査対象世帯の宿営地点を過去に遡ってGPS測定し、放牧地点と移動距離の変遷を把握
（→畜産物消費と売却、牧畜世帯と都市・町のインターアクションについては評価が難しい）
- ・1992年の民主化前後での牧畜システムの各項目についてインタビューし、その変化について把握
- ・2003年に施行された土地私有化の手法についてサインツァガン郡・デレン郡での事例を把握

4-2. 現在のモンゴル国中央部の牧畜生業構造を人文地理学的・生態人類学的に把握する

- ・1) 放牧・家畜管理・労働投下量、2) 経営収支、3) 生産効率、4) 環境負荷量、5) 畜産物消費・流通構造、6) 栄養摂取、7) 植生調査について滞在型フィールド調査をおこなう。
- ・全体的な傾向を把握するために、上記の調査項目中で何項目かを選び、広域調査をおこなう

4-3. 近年の社会構造・自然環境・牧畜形態の変化により生じた諸問題を同定し、その要因を分析する

- ・4-1と4-2の調査を通じて牧畜システムに関する諸問題を抽出
（→植生への影響評価は過去のデータが無いだけに難しい）
- ・マンダゴビ市で2002年から測定している気象データと植生データを活用し、両者の相関関係を分析
- ・明らかとなった諸問題と社会構造・自然環境・牧畜形態の変化との関連性を分析

4-4. 近未来のモンゴル国中央部の牧畜の方向性とその形態をシナリオ分析する

- ・基本的には、近年の牧畜システムの変遷の軸上に近未来の方向性とその形態を射程する。様々な社会状況や自然環境の変化を想定し、シナリオ分析する。
- ・内モンゴル自治区で定住化した牧畜民世帯の牧畜システム、社会構造、牧畜世帯と都市・町のインタラクションについて（別予算で）調査し、予測分析の資料とする。

4-5. モンゴル国中央部の牧畜を相対的に位置づける

- ・現地調査：モンゴル以外の粗放的家畜飼養システム地域、および、日本を含む先進諸国の集約的家畜飼養システム地域で、1) 放牧・家畜管理・労働投下量、2) 経営収支、3) 生産効率、4) 環境負荷量、5) 畜産物消費・流通構造、6) 栄養摂取、7) 植生調査のいずれかについて文献調査と（別予算で）現地調査をおこなう
- ・文献研究：上記項目について、モンゴル牧畜システムをモンゴル以外の粗放的家畜飼養システムおよび先進諸国の集約的家畜飼養システムと比較検討し、モンゴル牧畜システムの特徴や問題点を分析する

8. 調査研究計画

2008 年度

- ・調査世帯を決定する（2 世帯～3 世帯）
- ・気象庁のデータベースから気温、降水量と降水パターンの変遷を調査する
1982 年～2002 年：世界気象資料、気象庁
2003 年～2007 年：マンダルゴビ自動気象観測ステーションで測定する（30 分毎）←許可得る必要あり
- ・サインツァガーン郡・デレン郡のソム役場で家畜帳簿を調べる
世帯数、家畜頭数、人口、移住状況.....
- ・調査対象世帯の宿営地点を過去に遡って GPS 測定し、放牧地点と移動距離の変遷を把握
- ・牧畜生業構造について、
 - 1) 放牧・家畜管理・労働投下量（現時点での家畜頭数構造、2007 年の出産頭数、と殺頭数、死亡・紛失家畜頭数、販売頭数、労働種目リストと割当時間の測定）
 - 2) 経営収支（2007 年の家畜飼育に関わる収支：販売頭数・額、販売毛・皮革量・額、販売乳製品量・額、購入元畜代、購入飼料代、トラクター維持費、井戸維持費代.....）
 - 5) 畜産物消費・流通構造（と殺頭数、販売頭数（額）、購入食料種類・量・額、市場での畜産物・農産物価格調査）
 - 6) 栄養摂取量（食生活の栄養学的調査・サンプルの一般成分分析 in 帯広畜産大学）
 - 7) 植生調査（マンダルゴビにおける 2003 年からの定点調査（7 日毎）。マンダルゴビ IMH 職員に依頼し、2008 年も引き続き行う。気象と植生との重回帰分析に用いる。←許可得る必要あり）
- ・1992 年の民主化前後での牧畜システムの各項目についてインタビューし、その変化について調査する
- ・2003 年に施行された土地私有化の手法についてサインツァガーン郡・デレン郡での事例を調査する
- ・ウランバートル周辺の企業的な酪農経営についての情報を集める。

2009 年度

- ・サインツァガーン郡・デレン郡のソム役場で家畜帳簿を調べる
- ・調査対象世帯の宿営地点を過去に遡って GPS 測定し、放牧地点と移動距離の変遷を把握
- ・牧畜生業構造についての人文地理学的・生態人類学的調査をおこなう
- ・1992 年の民主化前後での牧畜システムの各項目についてインタビューし、その変化について調査する
- ・2003 年に施行された土地私有化の手法についてサインツァガーン郡・デレン郡での事例を調査する
- ・全体的な傾向把握のための広域調査をおこなう
- ・統一アンケート調査
- ・ウランバートル周辺の企業的な酪農経営についての情報を集める。

2010 年度

- ・調査対象世帯の宿営地点を過去に遡って GPS 測定し、放牧地点と移動距離の変遷を把握
- ・1992 年の民主化前後での牧畜システムの各項目についてインタビューし、その変化について調査する
- ・2003 年に施行された土地私有化の手法についてサインツァガーン郡・デレン郡での事例を調査する
- ・牧畜生業構造についての人文地理学的・生態人類学的調査をおこなう
- ・牧畜システムに関する諸問題を抽出し、要因分析をおこなう
- ・モンゴル国中央部の牧畜を相対的に位置づける
- ・統一アンケート調査

2011 年度

- ・牧畜生業構造についての人文地理学的・生態人類学的調査をおこなう
- ・全体的な傾向把握のための広域調査をおこなう
- ・牧畜システムに関する諸問題を抽出し、要因分析をおこなう
- ・牧畜の方向性とその形態をシナリオ分析する
- ・モンゴル国中央部の牧畜を相対的に位置づける